

浄

monthly
JÔDO

土

October 2002

10



法然上人讃仰会

ブロードバンドは、サービス品質で選ぶ。

世界をつなぐ、あふれるにつく
日本テレコム

ODNのADSLは最大1.5Mbpsの 超高速インターネット

*回線速度は、あくまでも理想値で保証されるものではありません。
また、提供局からの距離などの要因により変化することもあります。

コンテンツも充実

ODNの「ブロードバンドチャンネル」は、音楽やスポーツ、
エンターテインメントドラマ、料理など楽しい内容が盛り沢山。

さらに大幅値下げ! 2,880円/月 24時間 常時接続

○初期費用6,600円～
○モデムレンタルの場合 500円/月
*NTT東日本・西日本の回線使用料として187円/月(ワイプ!)が別途必要です。
*記載の価格は消費税別
(平成13年10月現在)

サービス 提供エリア 拡 大 中

札幌・仙台・東京・立川・
国分寺・武蔵野三鷹・千葉
市川・川崎・横浜・浦和・
川口・名古屋・京都・大阪
茨木・豊田川・八尾・岸和
田・兵庫・姫路・和歌山・神戸
北九州(平成13年8月10日現在)

*上記のエリアであっても、ご提
供できない場合があります。詳しく
はホームページ、またはテレ
ホンサービスでご確認ください。

[遠くエリアでも内線サービス]

☎0088-222-3575

[提供エリア検索ホームページ]

<http://www.odn.ne.jp/j-dsl/>

ODNフレックADSLプランもあります。

初心者でも安心の サポートサービス

お問い合わせ
お申し込み
○ODNサポートセンター J-DSL担当デスク
[受付時間] 9:00～18:00(年中無休)

☎0088-222-375

日本テレコム ならではの 保守管理体制

インターネットは日本テレコム

ODN
Open Data Network

ODNのADSL
J-DSL
パーソナル

寺院紀行

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。
日本の
心の故郷を紀行する。

松江

東林寺

東林寺第二十八世安井昭雄住職。お隣は
奥様の久美子（久映）さん。下は昭雄住職
が平成十一年に移転建立した東林寺本堂。



東林寺本堂内陣と本尊阿弥陀如来立像。
移転とともに造立されたこの本尊は純
金棕の像だ。



本堂向かって右手の客殿。この客殿も移転と
ともに建てたもので、本堂と調和のとれた建
築となっている。





本堂正面脇の大玉の数珠繰り。
篤信者から寄贈されたものだ。



安井昭雄住職は東京・芝学園から大正大学と、関東のお寺さんとも縁が深い。現在は島根県
の要職から浄土宗の宗会議員と多
忙を極めている。

海を思わせるような宍道湖。シジミが有名だ
が、この宍道湖は日本海につながっていて、
湖の奥は出雲の地になる。



月照寺

東林寺安井住職が兼務する月照寺は東林寺と並んでいる。東林寺が街中から山裾にある月照寺脇に移転してきたのだ。

松江を愛した文人、小泉八雲がお気に入りだったのが、この月照寺。中でも六代の墓所のこの亀はその作品になるほどだった。



月照寺の山門。湧き水あふれる山裾にあった禅宗の寺院が江戸時代に浄土宗月照寺と改められ、松江藩主の菩提寺となった。



松江藩松平家の初代の松平直政公は結城秀康の第三子で、徳川家康の孫にあたる。越前、信州からこの松江に移った。



初代直政公の墓所。月照寺の左奥に位置し、周りを水路が囲んでいる。見事な墓所は松江の観光名所ともなっている。

浄土

2002/10月号 目次

カラーグラビア寺院紀行・松江東林寺	写真 タカオカ邦彦	1
法然讃歌	成田有恒	6
寺院紀行松江東林寺	真山 剛	16
表紙の言葉	鈴木奈緒	25
映画「アレクセイと泉」を語る	本橋成一	26
民話をたずねて	石崎敬子・イラスト 石川忠夫	32
饗流十方	小村正孝	38
食と健康	長田英樹	42
シリーズ詠唱・埼玉・浄信寺		44
浄土誌上句会	選者＝増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語	藤井ひろし	51
編集後記		52



表紙題字＝浄土門主 中村康隆宛下
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

法然上人鑽仰会主催、浄土宗総合研究所協賛公開講演

法然讃歌

生きるための

念仏

その一

大本山増上寺法王
成田有恒

(作家寺内大吉)

きようは皆様大本山増上寺へよくおいでいただきました。大変広い建物でございますが、私がこの八十七世に就任いたしましたから一年半になるのですが、いまだにどこに何があるか、お部屋がどこにあるのか、わからずによく迷子になってしまふという状況でございます。

御承知のようにこの増上寺は徳川家康公が開かれたお寺でございます、歴代將軍様のお墓が、大体上野の寛永寺と半々になっておりまして、偶数の將軍様がこの増上寺に祀られて御霊屋がございます。

つい四、五日前に九代將軍家重公のご命日の御供養をしたわけでございます。御供養の前に、一体家重公というお方は何をやった將軍様なのだろうと思ひ、名前も余りなじみがないし、調べないと御供養になりませんから調べておりました。

これは「暴れん坊將軍」などとテレビで有名な八代將軍徳川吉宗公、大岡越前守なんていう人が南町奉行でいた時で、大変いろいろなことをおやりになった吉宗公の息子さんです。どうも三十八歳まで家督が継げないでいたようです。吉宗公は家督を譲ってからまだ四年ぐらい生きておりますから、まだまだ元気だったのだらうと思うのですが、息子に継がせなきゃいけないということで、家重公が九代將軍になります。十三年ほど在職して、五十一歳で亡くなったお方でございます。

その十三年間、いろいろ調べても何もないのです。何をやったかわからない。ようやく一つ出てきたのが、大変おトイレが近かったということだけです。江戸城を出て増上寺へお参りに来るとき三回はおトイレへ行かないと身がもたないというお方なのであります。

そうかといって、天下の將軍様が往来端でシャーつとやるわけにはいかない。三力所に立派な廁所をつくって、それも二の間、三の間つきの玄関まである廁所をつくつたらしい。だから江戸城を出るとまず桜田門外に一力所、続いて虎の門に一力所、そして、三つ目が増上寺の山門の外に一力所と、三力所廁所をつくって、それぞれで御用を足されてから増上寺に入られる將軍様でした。それしかないのです、この人の人生の足跡というものは。でも、考えてみると、大部分の人が歴史というようなものの中では、三回おトイレに行く、おトイレが近かったということだけでも大きなことであつたかもしれないのです。後世にこうやつて残っていくのですから。それと、私有家重さんに親愛感を抱いたのは事実です。ご供養をするのに心身が入るというものです。

「身」が入りすぎてこの事実を現在の徳川家の人に告げたくて仕方がありません。ちょうど昨日十八代將軍、つまり現在の徳川さん御夫妻とお昼御飯を食べました。御主人の將軍様には言いそびれましたが、たまたま御夫妻の間で私は食事をいただいたものですから、奥様の方に、おとといお参りした九代將軍、とついに言つてしまいました。奥様はもう笑い通しでございました。遠い御先祖さまがぐつと近付いてきたのではないでしょうか。

作家半村良のお葬式

これもつい先月のことであります。私の友人で半村良という作家がおります。これはイーデス・ハンソンという字をそのまま、良はイーデスであります、半村はハンソンですから、イーデス・ハンソンという名前をもじってペンネームにした人。東京の両国高校を出

てなかなか秀才だったらしい。ところが、家庭がごたごたして結局上級学校へは進むことができない。大変な決意で、大変なファイトを持って、みんな仲間がエリートの大学へ行くけど、おれは両国高校卒業だけで頑張るんだって、とうとう彼は頑張り通しながら直木賞を受賞し、一人前の作家になったわけなのでございますが、その後の十年間はひどい話で、我が家へ帰ってこないのです。どこへ行っちゃったかわからない。そして、次々とマンションを買っては、売るならまだいいのですが、買ってはくれてやり、買ってはくれてやり。要するに、次から次へと女性をつくってはマンションを買い与え、飽きてくるとまた別の女性のところへ行ってしまふ。

そして、一年ほど前から体を壊しまして病院に入っております。盛んなときは、お母さんの御法事をやる、私の世田谷の寺の方でやったのでございますが、バス二台が横づけになっておりまして、法事が終わると親戚一同をバス二台に乗せて熱海温泉へ連れて行って、そこでみんなに一泊させて、そしてどんちゃん騒ぎの御供養という大変な豪華なものでございましたが、奥さんがやってまいりまして、

「うちのだんなもようやく病院から連絡があつてひとりで病院の部屋で横になっています。日ごとに悪くなつていつて、どうしても回復不可能だということです。お葬式を出したいが、借金以外は何もありません」と言うのです。

「うーん、そんなことになったかね。それで、葬式をどうするつもりだね」。

「葬式はやらないで、そのまま火葬場へ出したいと思うが、ひとつよろしく頼みます」と。

「奥さん。それは間違いだよ。お葬式というものは形式だけじゃない。村八分という言葉が昔からあるだろう。村八分、あの家とはおつき合いはしない。八分ということは二分残っているんだと。二分だけはつき合う。その一つがお葬式なんだ。もう一つは水だとか火事になったとき。ふだん絶対つき合わないお家であっても、この二分だけはつき合う。だから、逆に言えば村八分の反対だ。あんた構わないから、あらゆる手を尽くして御主人が死んだら全部知り合いに通知を出しなさい。葬式というものは派手にやればやるほどコストが下がってくるものだ。」

コストというものは、いろいろな費用が当然かかる。そのコストをダウンさせなきゃいけない。それには大勢の方に知らせなきゃいけない。まあ村二分でありますから、知らせを受ければ何がしかのお香典は持つてくる。気持ちだけでも。そうすると葬式のコストがどんどん下がっていくわけだ。だから、結婚式は地味に、葬式は派手にしなきゃだめだ。香典半返しというんですから、いただいたものは半分だっていい。場合によっては一部だけをおさめて、福祉施設に寄付を申し上げましたと印刷物一枚で済んじゃうんだ、これよくおやりになる手だ、皆さんが。だから、半村さんだって大変な広いつき合いがあつたんだから全部知らせておやりなさい」。

それから三、四日してとうとう亡くなりました。亡くなる前に、後で奥さんに聞いたら、「あんたも家を出て十年近く、もうこの病院にいてもしょうがないから家へ帰る？」

こう言ったら半村さんは、もう意識も薄れていたのですが、「うん」とうなずいた。そして、うなずいた後、

「帰ってもいいのかな」

一言そう言ったそうさ。つまり、奥さんに、帰ってもいいのかい？

ほつぱりばなしで十年近くあちこちへマンションを買い捨てて歩いてた男でございませう。それが家へ帰って安らかに息を引き取られたのです。

さあ、それから今言った村二分の活動でございませう。ところが、私もいろいろな出版社の連中に出会った。半村さんの本をたくさん出してゐる。どの出版社に聞いても貸しばかりで、とても金なんか出ないと言う。借金ばかりしてゐる。でも、村八分のうちの二分なんだぜ、本人は死んだんだよ。何とかいたします、と彼らも骨を折ってくれた。おかげで立派なお葬式ができました。五木寛之君なんか葬儀委員長まで務めて、あれも随分金をふんだくられたと思うのでございませうが、そういうことを忘れて立派なお葬式を出しました。終わってから奥さんがやってまいりました。

「ほんとにおっしゃるとおりでした。お香典いただいた方が八百何十名いた。おかげで黒字になりました」。

黒字にまでもしなくてもいいんじゃないかと思うけど、やはりお葬式ってそういうものでございませう。

まあ、お金の問題だけじゃない。うっかり小ぢんまり葬式をやっちゃって、その後私どもも経験があるのですが、毎日のように何人も何人も弔問の人が来るのです。その人たちに同じ話を朝から晩までひと月間ぐらいしてなきやならないのです。やつぱりやるときは一時でどかっとなつちやわないとまずいのでございまして、これは生活の知恵であらうか

と思うのでございます。

火葬の起源と聖たち

日本で庶民がお葬式をやるようになったのは奈良時代の末期からと言われています。それまでは一家に死人が出ると遺体を山へ捨てに行つた。だから『万葉集』の中にもそんな歌があります。愛する家内が死んだので山へ葬つたら、二、三日したら野良犬が家内の首をくわえて庭をうろうろしていた、なんて歌がございます。ところが、だんだん奈良時代の末期から庶民にもお葬式が出せるようになった。なぜ出せるようになったか。これは仏教とともに火葬令というものが日本に広がつたからです。亡くなつたお方の遺体を荼毘にふす。焼く。でありますから、小さいスペースのお墓でお骨を納めることができるのです。納められない人は、牛に引かれて善光寺参り。善光寺信仰というのがあります。長野の善光寺さん、ここへお骨を持つていくのです。ですから、現在の長野市はどこを掘つてもお骨が出てくるそうです。もう長野市全体に日本全国からお骨を持つてきたらしい。中にはかわいひとり息子に先立たれ、年寄り夫婦は行くところがない。せめて息子のお墓のそばで死んでいきたい。これらがまた山に住んで、はるかに善光寺さんを拝みながら、うば捨て山というものもそういうところから、単なる一つの集落の中から年寄りを追い出したものだけでもないようでございます。日本各地から老人が長野市の周辺に集まつてもいたようであります。

いずれにいたしましても、火葬したお骨、これは簡単に持ち歩きが出来るわけです。茶

毘にふすときにやつぱり宗教者が立ち会わなきゃならない。これを聖と呼んだのであります。聖というのは聖徳太子の聖という字をよく当てておりますが、本来は燃やす人、火治りであつたわけです。要するに火葬令、これに立ち会ふ宗教者。この宗教者というものが、中にはにせもののお坊さん、いろんなのがいたわけでございます。

奈良時代には行基菩薩という人がいました。この行基さんというのはそういう聖たちを集めて盛んに宗教活動をやつた人です。まあ、行基さんといえば、池をつくつた、橋をつくつた、大変いいことがたくさん書いてあります。これも確かにあるでしょうが、そういう社会奉仕のほかに、基本になる飯を食つていく材料がなきゃ生きていけないのです。ここにやつぱり火葬令が広まつた中での聖の役割。その聖のリーダーが行基菩薩―。

時の朝廷はいわゆる律令の僧尼令というのがございまして、法律に背くから、小僧行基、こんなものは逮捕して処刑しなきゃいけない、逮捕礼状ができた。そして全国を行基菩薩は逃げ回つた。ところが、やがて聖武天皇は奈良の東大寺に大仏をつくることになつて、全国から金を集めなきゃならん。ところがさつぱり集まらない。だれかが知恵で、行基さんの聖の群れに集めさせたら金が集まるんじゃないか、と天皇には内緒だつた。天皇は、小僧行基、あんなものは逮捕して処刑しろとおっしゃつたばかりだから。ところが、行基さんに頼んだら、この聖たちが全国津々浦々を歩き回つて莫大なお金を集めてきた。たちまちあの東大寺の大仏ができるようになった。朝廷ではその感謝の印に行基菩薩に大僧正を贈つたわけだ。それまで僧侶も何もなかつた人に、それこそ逮捕状しか出さなかつた人に大僧正を贈つた。行基さん、これが聖の奈良時代では大将でしょう。しかも行基さ

んはどのような仏教を広めたか。文献によると理念理屈ではない。お念仏を唱えさせたのです。

平安時代に入ると今度は、空也上人です。空也上人というのはこれまた大変な聖を集めました。聖の大将でございます。醍醐天皇という方がお亡くなりになったとき、記録を見ますと、宮中での儀式が終わって出て行く、すると両側に何万という聖が葬送の列をつくりお念仏でお見送りしたという記録がある。大変な聖の数がいたのです。

そして、空也上人の一番弟子の仙覚という人が、園城寺へ入って、そこを聖のメッパにしたのでございます。

そして、同じ天台、比叡山でも、園城寺の方は聖の中心地、比叡山の方は学僧、修行僧の中心地。これは仲が悪くてしょっちゅうけんかをしていたのでございますが、この園城寺派の中に入ったのが信西入道という人であります。信西入道という人は、後白河天皇が幼いころ、その育てのお乳母さん、この人と再婚いたしましたので、何とかして後白河幼帝を天皇の位につけた。信西入道はこれに情熱を傾けたのですが、結局はお父さんの鳥羽天皇は幼い二条天皇に譲ってしまつて、後白河はなかなか皇位につけなかった。信西入道は身をはかなんで園城寺に入りました。入ればともと政治家ですからたちまち聖の集りを大きく組織化したのでございます。

ところが彼は、ついに保元の乱直前に後白河天皇というものを実現させ天下に覇を唱えたわけですが、その後平治の乱で彼は殺されてしまいます。信西一族はそれぞれが島流しになつたりしましたが、やがて復活してまいりまして、この信西入道の聖の大組織の路線

を受け継いだのが遊蓮房円照という人でございます。たくさんいる兄弟の中で、円照こそは父であり師匠であると兄弟たちが言っているほどの器量の人でございまして、この大組織を継承したわけでございます。

残念ながらこの人は四十歳にならずに亡くなっていくわけでございますが、その亡くなる数年前にあらわれたのが法然上人でございます。四十三歳で比叡山をおりまして巷へ出た法然上人。何かの組織がなければあはお念仏は広がりなかつたと思います。法然上人のお言葉に、「遊蓮房円照と出会ったことが浄土の法門に出会ったことと同じように私の人生の重大事だった」というお言葉が残されております。それは単なる浄土の信仰だけじゃない。それを信仰する巨大な組織を遊蓮房から任されたということでありましょう。比叡山を下ってわずか数年後に平重衡によって焼かれた奈良の東大寺の復元が法然上人にゆだねられたのも広大な念仏ひじりの組織であつたからこそです。

山の中で四十三歳まで一切経ばかり読んでた人に、何でこんな勸進職、お金集めの職が回ってきたのか。法然上人はそれを辞されて高野山の蓮華谷の念仏聖だった俊乗房重源という人に勸進職を譲るわけでございます。大きな組織を持つてなきやそういうことはあり得ないことなのです。既にその巨大な専修念仏、念仏者たちが、念仏聖たちがいたのです。

(続く)

寺院紀行

松江

東林寺

撮影／タカ才力邦彦
文／真山 剛



東林寺山門。東林寺と月照寺は並んで建っていて、境内と境内がつながっている。安井住職と奥様のお住まいは月照寺境内に建っている。

よく、十年一昔、と言う。

はたして今の時代に十年という時間が社会変化に伴っているかは別としても、やはり十年というのは一つの区切りとなる。人が来し方行く末を思う時、二十代、三十代とか、六十代、七十代と、やはり自然に十年単位で考えてしまう。

しかし、十年単位で人生を区切った時、その十年に何をなし得たか、何を残したか？ と考えると、意外とすらりと答えられない。歳月の流れは容赦してくれはしない、気がつけば十年などあつと言う間、ランドマークを残す余裕さえないのである。

今回訪れた松江の東林寺住職は来年還暦を迎えられるが、多くのランドマークを残されて来ている。松江藩の藩主の菩提寺である月照寺の住職も兼ねる安井昭雄住職を東林寺に訪ねた。

「私はいつも夢をみます。そして、その夢を追いかけます。いつも目標を立てている、ということです。」

平成十一年に新築されたまだ木の香りが漂う客殿でのインタビューの最後を、東林寺第二十八世安井住職はこう締めくくった。

十代は東京芝学園の芝高の生徒ながら、芝中のバレーボールのコーチとなり全国大会への道を開く。二十代は大正大学に助手で残るよう教授に勧めながらも、先代住職の急逝から断念、住職となり月照寺宝物館を建立し同寺再建の一步を踏み出す。三十代はポランテ



松江のシンボル、松江城。きれいな姿の城はその周りのお堀も現存し、見てよし、上ってよし、回ってよしと三拍子そろっている。

イアと青年会議所活動などに力を入れ、現在は中四国二万余人のライオンズメンバーのトップリーダー、また平成十二年に受賞した藍綬褒章での肩書き、篤志面接委員はこの三十代からの実績によるものだ。四十代は寺院活動に専念し年中行事と定例会を確立させ、さらに書院の建立。五十代は島根県の仏教会会長を始め、浄土宗宗会議員、そして東林寺の移転。同時に三十年前から弟子も育てている。現在、後継者で京大大学院に学ぶ一人息子の大真師を含め八人。在家出身の弁護士や教師など顔ぶれは多士済々だ。

さらに、いただいた略歴を見ると、県レベルでの行財政、環境関係の役職や、市レベルでの街作りや文化教育関連の肩書きが目立つ。浄土宗の一僧侶であることは間違いないのだが、安井住職にはいくつもの顔がある。県や市の十億円を超える大プロジェクトへの参加も片手では収まらない。東林寺の住職、そして月照寺の兼務住職であることがその基盤ながら、その活動範囲は相当に広い。先にあげたランドマーク以外にも数え切れない業績があるに違いない。

さて、そんな安井住職にとって、月照寺の存在は大きく、今の僧侶としての人生を決めた理由と言っているほどである。

「中学や高校の時に夏休みというとき、東京からこの松江に帰ってきました。東林寺はその頃はまだ街中にありましたので、この市街からはずれた山裾の月照寺の境内によく遊びに来て、泊まったもので

東林寺の跡地。松江駅から三分の町中で、現在は墓地が残っているだけとなっている。



す。当時は雑草が膝まで伸びていましたが、廟所の周りを散歩したり、蓮池を写生したり……。月照寺はまさに思い出の場所、心の故郷です。その月照寺を復興したい、だからこそ学問の道を捨て、松江に戻って来たのです。もし、東林寺だけだったら松江には帰って来なかったかもしれません（笑）

さて、ここで東林寺と月照寺の関係を、その歴史と共に少し整理してみよう。現在はこの二つのお寺は隣接しているが、東林寺が月照寺の横に移転したのが平成十一年。それまでは松江大橋を渡った松江駅側にあった。今では墓地しか残っていない東林寺跡地だが、周りはお寺だらけという寺町の一角を占めていたのだ。

この寺町は一六〇四年の堀尾氏による松江城の築城とともに地名が松江と変わった頃、かつての白濁の禪寺あたりに各宗派の寺院が各地から集められたところである。ちなみに東林寺は一六〇八年に、同じ島根県でも鳥取寄りの広瀬町の富田から移ってきた。富田はドジョウすくいで有名な安来節の安来市を流れる飯梨川の上流にあり、かつての尼子氏の居城の地で、富田城址の壮大さから山陽方面から出雲へ向かう山間の要衝の町だったことがうかがえる。

さて、寺町の中でも東林寺の伽藍は一際大きく、明治二十二年には松江市に市制がしかれた第一回の記念すべき市議会を本堂で開いたほどである。また東林寺を一躍有名にしたのは明治四十四年の桶

新本堂の落慶は平成11年5月30日。知恩院の末寺である東林寺には、宗や教区、そして知恩院の諸大徳がお祝いに駆けつけてくれた。



松江藩主菩提寺

月照寺

七代藩主の松平治郷公は、茶の道を究め、不昧公とも呼ばれた。その影響で松江では現在も茶道が盛んで、京都、金沢と並ぶ菓子の名所となっている。東林寺安井住職も茶道の師範で、知恩院御忌での茶席、またフインランドのヘルシンキで茶道の講議もされている。

不昧公が愛用した月照寺参道脇の湧き水。今も静かに溢れている。



七代藩主、不昧公の廟所。



湧き水と参道を挟んで逆側にある雷電の碑。現在にも語り継がれる名力士雷電為右衛門の手形に、次々と観光客が手を合わせていく。雷電は不昧公に抱え込まれ、二十歳の時にその名を天下に轟かせた。雷電を讃える尾崎士郎氏の文章も彫られている。

島根県の指定文化財となっている文殊菩薩絵像。二代藩主が出雲大社から買い受けたもの。



月照寺の境内。七千坪の境内地のうち、松平家の墓所が四千坪と、まさに藩主の菩提寺である。



屋火事で、近くに住む桶職人が借金返済に保険金をあてようと、放火した事件である。犯人が丁寧にも桶底を抜いてすぐ捕まったものの、東林寺は本堂、観音堂などが消失の憂き目にあった。

この東林寺は浄土宗総本山知恩院の末寺として建立されたが、一方の月照寺は洞雲寺という禪寺を、堀尾氏、京極氏に続いて松江藩主となった松平氏の初代直政公が改称復興したものである。時に一六六四年のことである。

松平直政公は徳川家康公の孫にあたり、家康の次男秀康の側室の子で、母、月照院の惜しみない愛情に育まれたこともあり、終生尊敬し続けた母の名から命名した。以後、明治維新までの十代にわたる藩主松平家の菩提寺として島根第一の寺格を保っていた。

さて、この二つの寺院を同じ住職が兼ねるようになったのは昭和の始め頃だという。安井住職の曾祖父は明治十年に士族から浄土宗僧侶に身を転じ、やがて東林寺第二十四世に弟子入りする。東林寺全盛期の頃である。片や月照寺は徳川家の寺ということで廃仏毀釈以後はしばらくの間、荒れ放題となっていたようだ。

同じ浄土宗であり、ともに名利。そんなことが縁になったのか、曾祖父である二十五世は昭和十年に遷化される前に月照寺を兼務寺院とし、何かと面倒を見てきた。また、今では残っていないそうだが、かつては浄土宗寺院には格付けがされており、東林寺、月照寺

ともに准別という高い格付けの寺院だったのを、兼務六年目にして、月照寺の格付けを一つ下げ、バランスをとっている。

そうした島根を代表する寺院に大きな変化をもたらせたのが、昭和二十一年の財産税である。それまで月照寺の実際の維持管理をしていた松平家が、この財産税に伴い月照寺境内の松平家歴代藩所の九つの廟所を一つにまとめようと言いつ出したのである。多くの資産を持つ者の財産税への対応策ということだったのだろう。

しかし、これには現住職の祖父、第二十六世が大反対した。月照寺七千坪の敷地の内、四千坪が松平家の廟所、墓である。つまり月照寺という寺は藩主の廟所だからこそ歴史的価値があるのである。

初代の廟所は水路に囲まれた一番広い廟所。六代の廟所には石碑を甲羅の上に乗せた大きな亀の寿蔵碑が立ち、小泉八雲が小説にしている。また石州流不味派という茶の湯の流派までたてた七代の廟所は、小高い所にあつて松江城を望むことができる。こうした廟所あつての月照寺ということを知父は十分承知していたに違いない。

松平家の案に反対し現状維持に成功したが、以後は経済面も東林寺がみるこゝとなつた。余談だが、時は下つて平成三年にもやはり松平家との間に訴訟が起き、松平家は月照寺の祭祀権だけを継承することになっている。

少し長くなつたがこれが東林寺と月照寺の歴史と関係である。そ



法然上人木像。塗り直されたお像は
本堂脇陣にお祀りされている。

して、この関係は四代続く安井家なしには考えられない。名利の歴史と伝統を維持し続けるために、東林寺の歴代住職が惜しみなく力を注いで来た結果だからだ。そして昭和の後半より、月照寺の新しい方向性を打ち出してきたのが、現安井昭雄住職である。

安井住職が東正大学から戻り東林寺の住職となったのが、昭和四十五年。二十六歳の時である。

まず、祖父が散逸を恐れ開けさせなかった蔵に残っていた数々の寺宝を公開することから始まった。若年ながら銀行からお金を借り、翌年には宝物館を建立、月照寺展を開催する。年が変わると新幹線が岡山まで延びたこともあり、松江の観光名所ともなった。

もともと松江城、宍道湖、出雲大社といった観光地でもあるだけに、多くの観光客が訪れた。雑草取りから始めた境内に多くの観光客が訪れるようになったのである。

観光客にしてみても、来てみれば参道脇には、七代不昧公が見込んで抱えた雷電為右衛門の記念碑も聳えている。雷電の三十四場所の勝率、九割六歩二厘は古今の力士中の最高で、また尾崎士郎が添えた碑文も魅力的だ。さらに参道を挟んだ向かい側には不昧公が愛用したと言われるきれいな清水が湧いている。松江は京都、金沢と並んで茶の湯で有名だが、その歴史にも触れられる。

そしてさらに平成八年には国史跡の指定を受け、現在は、国、県、



JR 松江駅を通る山陰本線は明治四十四年に開通。当時、停車場通りと呼ばれた道が東林寺境内に予定されたのが、移転の発端となった。

市とともに十年計画での整備が進み始めるなど、月照寺を松江に欠かせない名刹にする住職の思いは一つずつ形になってきている。

一方の東林寺は移転は無事終え、純金無垢の本尊を新たに彫って開眼し、またひとつ寺宝がふえそうだ。そして次なる目標は墓地の整備である。東林寺八百坪の境内地に対し、墓地は三千坪。本堂裏の山腹をどう開発していくかが課題である。また、月照寺では本堂の再建だ。かつての十二間四面の出雲一の大伽藍の復興は、県や市とは別で、安井住職個人の手にかかっている。

「どちらも、私にとつての夢ですね。どうかなえていくにしろ、これはあくまで私の夢で、寺を継いでくれても息子の夢にはなりませんから、これからも私のペースでやっていきます。」

前向きな住職にとつて、この二つが六十代でのランドマークであることは間違いないが、さらにもう一つの夢がある。

「浄土宗教団の将来を、実践を通してながら考えていきたいと思っています。これまでの経験を宗会議員として活かしたいのです。」

何をするにも専門家との話し合いを大切にすること、とおっしゃる安井住職。島根から全国へとその夢は膨らみ、そしてその夢をかなえるために今日も東奔西走されているのである。（ルポライター）



松江城の北川、お堀端に残る小泉八雲邸。八雲ことラフカディオ・ハーンは妻セツとこの家に住んだ。

◆表紙の言葉◆

能素描

蟬丸

せみまる

秋の近江のくに逢坂山に於ける薄幸な貴人の姉弟、逆髪と蟬丸の悲愁に満ちた能。

延喜の帝の第四皇子蟬丸は、幼少の頃より盲目の身であった。父の帝の命により蟬丸は逢坂山に捨てられる。

盲目であることは前世の戒行の拙ない為。捨てられることにより、この世で前世の罪障をつぐない後世を助けるための親の慈悲と、蟬丸は考えようとする。しかし剃髪し皇子の装束を脱ぎ、杖と笠のみを与えられた一人になると、悲しみ堪えがたく蟬丸は琵琶を抱きながら泣き伏してしまう。

延喜帝第三の皇女逆髪は、髪が空ざまに逆立っていて、くしけずっても下りない。心が乱れてもの狂い、都をさすらい出て逢坂山に來ると、わら屋の内から清らかな琵琶の調べが聞こえて来る。寄ってみると内から声をかけたのは弟宮の蟬丸であった。姉弟は手を取り合って互いの身の上を嘆き悲しむ。

やがて別離のとき、行くあてもなく去って行く姉宮、立ちつくす弟宮、涙の別れとなる。

陰惨な内容ながら、仏教的諦観と琵琶の音楽にささえられた蟬丸と、さすらいの詩人のような逆髪の華やかさに、舞台には詩情がただよう。

表紙画と文

鈴木奈緒

- | | | |
|--------|-------|-----------------|
| プロフィール | 1947年 | 三岸節子先生に師事 |
| | 1950年 | 女流画家協会展 H 婦人賞受賞 |
| | 1983年 | 秋耕会展 女流会長賞受賞 |
| | 1994年 | 秋耕会展 文部大臣賞受賞 |
| | | 個展23回開催 |



映画

アレクセイと泉を語る

20世紀が残した問題

本橋成一

インタビュー

聞き手・本誌

平井泰代子

本橋成一監督のドキュメンタリー映画「アレクセイと泉」は、ウクライナに北隣するベラルーシの深い森の長い道のりを静かに抜けて「泉」に辿り着くシーンから始まる。

この「泉」は小さな村ブジシチエにある。1986年4月26日あのチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故でもっとも放射能の被害の大きかった地域で、肥沃な土地、彼らが大好きなきのこがとれる森、村の全てが汚染された。

600人ほどいた村人は、政府の移住勧告によりほとんどがこの地を去り、現在55人の老人と映画のタイトルになった、たった1人の青年アレクセイだけとなった。そして村の名前は地図から消されてしまったのにもかかわらず、彼らがこの地にとどまったのは、放射能がまったく検出されない不思議な「泉」があったからだ。村人たちが「百年の泉」と呼ぶこの泉は、大地に降注いた雨水が、100年という時間をかけ地中で濾過され、再び湧き上がってくるのだという。

そんな泉を囲んで、糸を紡ぎ、籠を編み、家族のように家畜と暮らし、りんごの収穫祭では酒を飲み、歌い、踊る村人の暮らしは、質素で明るく逞しく、聖者のようである。

アレクセイの訥々とした語りと村の季節の美しさ、それが坂本龍一の音楽と調和し、真の「ゆたかさ」を考えさせる映画である。

その監督、写真家の本橋成一さんにインタビューした。

——チエルノブイリには10年間通っていらっ
しゃいますが、何が本橋さんをそこまで通わ
せたのでしょうか。

本橋 事故から5年経っていた1991年に
ボランテアとして写真を撮りに行った
のが初めてでした。そこで出会ったこの地
域の人たちは大変な事故に遭ったのにも
かわらず、みんな明るく、逞しいです
ね。彼らの生活をみていて、物質文明の
中で暮らしている自分たちが失ったもの
は、何かものすごく大きいのではないか
と思いました。

「核」ではなく「いのち」をテーマに
して撮ろうと思いました。ゆたかさとは、
いのちとは何なのか、そのことが仕事の
テーマでした。

——「アレクセイと泉」の中の人たちは、私
たちから見たら大変な経験をしていると思う
のですが、本橋さんの映画からは悲惨さより、
彼らの逞しさや明るさ、ゆたかさが伝わって

きます。どうしてでしょう？

本橋 それは、村人たちは自然に対してとても謙虚だからだと思います。

僕の「何故この汚染された土地を離れないのか」という質問に老人が「どこに行けというのか、人間が汚した土地だろう」と言われ、何も言えなくなりました。

村人たちには、誰かのせいにするということがないのです。嵐がくればそれに耐え、嵐が行き過ぎるのを待つように、自然と一緒に生きているんですね。食べるために働き、生きるために働く。働くことが生きることなのです。そうした彼らのいのちのペースが見えてきて、とても考えさせられました。

そして彼らの手はみんなごついんですね。手が道具になっていて、じゃがいもを掘る、機を織る、糸を紡ぐ、家畜をさばく。みんな手を使います。

今のようにスイッチを押すだけの手

とは明らかにちがいます。今はスイッチを押せばなんでも快適な生活が手にはいる。それらとは全く違うと思いましたね。

私たちは快適な生活を得ようとして、何か大事なものを失ったような気がします。

——彼らの生活を見ていて、祈りが生活になっている、生活が祈りになっているように感じますが。

本橋 「いのちを宿す為に水を借りている」と彼らは言うんですね。

凄いなあと思いました。普通このような言葉は、なかなか出てきませんよね。泉の水を運ぶことは大事な仕事です。年老いていくと水を運ぶバケツがだんだん小さくなっていきます。それは自分の生活を小さくするということを意味しています。彼らはそのことを自然に受け入れて暮らしています。

借り物のいのちをいつか地に帰すということだと思うのですが、彼らの生活から真のゆたかさとは何なのか考えさせられました。

——1968年に第5回太陽賞をとられた「炭鉱」という写真集を出されていますが、それが原点になっていらっしゃるのでしょうか？
本橋 卒業制作で筑豊を撮った時に、記録文学者の上野英信氏から多くの教えを受けました。

「君は彼らとどの目の高さでつき合っていくのか」「どの目の位置から撮っていくのか」と何度も問われたんです。

このことが、僕の写真を撮るということの基本的なスタンスになっていますね。

人にカメラを向けるということは、どこか暴力的な行為になる要素を持っています。それではいい写真が撮れないと思っています。

僕は写真も映画も相手との関わりだと思っています。

——ありがとうございます。これから本橋さんならではのテーマと目線による作品を期待しています。

別れ際に本橋氏は、「チエルノブイリの病院で子どもたちを見舞った時は、とても辛い思いをしました。でも、この子どもたちの悲しさを伝えるのではなく、この子どもたちに何かメッセージを残したいと思ったのです」と語ってくれました。

それは20世紀に多くの問題を作ってしまった責任を、私たち大人は子どもたちにどうやって償っていくのか、この映画のテーマである「いのち」と「ゆたかさ」を考えることとともに、忘れはいけないこととして、私たち一人一人に問いかけているように感じられました。

「アレクセイと泉」上映予定スケジュール

2003.2.28(金)	2003.3.8(金)	2003.3.12(土)	2003.3.14(土)	2003.3.14(日)	2003.3.17(日)	2003.3.24(日)	2003.3.16(土)	2003.3.17(日)	2003.3.20(日)	2003.3.11(金)	2003.3.10(木)	2003.3.5(土)	2003.3.30(月)	2003.3.29(日)	2003.3.21(土)	2003.3.14(土)	2003.3.11(土)	2003.3.7(土)	2003.3.30(土)	2003.2.28(土)
熊本県	東京都	山口県	東京都	山形県	長野県	茨城県	奈良県	石川県	山梨県	栃木県	新潟県	長野県	岩手県	和歌山県	福岡県	埼玉県	熊本県	沖縄県	東京都	北海道
熊本市産業文化会館	BOX 東中野	宇部市シルバークレあいセンター	渋谷区東京ウイメンズプラザ	東北公益文化大学(酒田市)	軽井沢プリンスホテル(北佐久郡)	笠間市中央公民館	秋篠音楽堂	金沢市開善寺	山梨県環境科学研究所(富士吉田市)	佐野市文化会館	長岡市リリックホール	長野市清里市民文化ホール	盛岡市おでつてホール	新宮市職業訓練センター	福岡市総合図書館映像ホールシネラ	さいたま市民会館おおみや	水俣市もやい館	リュウボウホール(那覇市)	東村山市民中央公民館	苫小牧シネマ・トラス
一般	一般	一般	一般	一般	限定	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般
096137218903(沖藤宅)	0315338916780	0833613313985(石川宅)	031374918328(金子宅)	023412217771(尾形宅)	026812519422(深井宅)	029617217951(井上宅)	076126117374(今井宅)	055517216203	028312313345(亀田宅)	025812113331(内藤宅)	026128513192(春原宅)	019162210773(豊島宅)	073512311826(緒形宅)	092178112817(田中宅)	048164116544(坂本宅)	098186711171	042419518318(小川宅)	014413718182	042419518318(小川宅)	014413718182
監督参加	イベントあり	監督参加	監督参加	監督参加、写真展示	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加	監督参加

上映日

県名

上映場所

対象 問合せTEL(個人)

内容その他

本橋成一(MOTOHASHI Seiichi) 写真家/映画監督

◆プロフィール

- 1940年 東京生まれ
1963年 自由学園卒業
1963年 九州・北海道の炭鉱の人々を撮り始め、その作品「炭鉱〈ヤマ〉」で1968年
第5回「太陽賞」を受賞
1991年 事故後5年を経たチェルノブイリ及びその周辺に通い始める
1995年 チェルノブイリ原発事故の被災地で暮らす人々を撮影した「無限抱擁」で、
「日本写真協会年度賞」「写真の会賞」を受賞
1997年 被災地ベラルーシを舞台にした「ナージャの村」を映画と写真で映像化する
1998年 '97年に開かれた写真展「ナージャの村」で「第17回土門拳賞」受賞
2002年 第二作目の映画『アレクセイと泉』が1月より公開。東京都写真美術館に
て写真展チェルノブイリ三部作「ナジェジダ〈希望〉」を同時開催
52回ベルリン国際映画祭にて映画『アレクセイと泉』がベルリナー新聞賞
及び国際シネクラブ賞受賞
第12回ロシアサンクトペテルブルク映画祭で『アレクセイと泉』グランプリ受賞

◆主な写真集・著書

- 1968年「炭鉱〈ヤマ〉」現代書館刊
1980年「サーカスの時間」筑摩書房刊
1983年「上野駅の幕間」現代書館刊
1987年「ふたりの画家」(丸木位里・俊) 晶文社刊
1988年「魚河岸 ひとの町」晶文社刊
1989年「サーカスが来る日」リプロポート刊
1990年「老人と海」朝日新聞社刊
1993年「砂の旅人」(立松和平共著) 駸々堂刊
1993年「チェルノブイリからの風」影書房刊
1993年「サーカスの詩」(ペンボスタ) 影書房刊
1994年「無限抱擁」リトル・モア刊
1998年「ナージャの村」平凡社刊
2000年「ナージャ希望の村」学習研究社刊
2002年「アレクセイと泉」小学館刊



「アレクセイと泉」を語る本橋成一氏。

連載

ああ、勘違い

石崎敬子



SHI
KAWA

昔々、農作物の出来具合を見回るお役人が、ある村へ来ることになったと。そこで、村の名主の家では座敷を新築し、いろいろと準備をして待つておったと。

やがてお役人がお供を引き連れやつて来た。村中の田畑を見て回り、夕方頃、名主の家を訪れたと。その夜はそこへ泊まる事になったと。

お役人は一日中歩き回り、たいそう腹が減つておったから、すぐさま名主を呼びつけたと。

「夜食を持つてまいれ」

「へえー」

名主はかしこまつて、下がったものの、「ヤシヨク」が一体何やら分からん。村役人一同が寄り合つて、あーだこーだと相談したが、何のことやらいっこうに分からん。そこで、村一番の物知りのところへ人をやつて聞いてみた。すると、

「ヤシヨクとはな、八卓のことで、つまり机を八つ出せ、ということじゃ」

と言う。

おおそうか、お役人様は大変な書き物でもなさるに違いない。早く早くというわけで、急いで机を八つ借り集め、それを座敷の役人の前に担ぎ込んで並べ立てたと。

お役人は、目の前に並べられた八つの机を見て、

「妙なお膳じやな。はてさてどんなに馳走が出るのやら」

と、楽しみにしておったが、いつまで待っても食べ物は出てこん。

しびれを切らせた役人は、また名主を呼んで尋ねたと。

「夜食はまだか」

名主は八つの机を指しながら、

「これこの通り、八卓は差し上げてございます」

と、恐る恐る申し上げたと。お役人はあきれかえり、いやいや、夜

食とは夕飯のことじゃ、と教えた。

なんとか夕食もすみ、やがて寝る頃になると、お役人はまた名主を呼びつけた。

「床をとれ」

「へえー」

と、名主は下がったものの、驚いた。

「お役人様をお泊めするためにせっかく新築したというのに、座敷のどこが気にいらんで、床を取れと言うのじゃ」

だが、お上の言いつけとあつては仕方あるまい。名主は急いで大工を呼んで来たと。大工は新しい座敷の床の間を、鋸でゴキンゴキンと挽き、手斧でトントンぶつ叩き、床板を剥ぎ取り始めた。

その様子を見たお役人は止めさせ、訳を聞き、たまげたと。そこで、いやいや、床をとれとは、床の間を取れということではなく、寝床を敷けということじゃ、と教えた。

翌朝、お役人は目を覚ますと、早速名主を呼び、

「手水らようすを回せ」

と、言いつけた。

ところがまた名主は、このチョウズということが分からん。村役人一同に相談を試みたが、やはり何のことやら分からん。また村一番の物知りに聞いてみると、

「チョウズとは長頭で、長い頭を回せということじゃ」

と言う。村一番の長い頭といえは、八左右衛門という爺様じゃ。そんじやその爺様がよからうというわけで、早速その爺様を連れて来

て、羽織袴を着せ、お役人のいる座敷へ伺わせた。爺様は座敷の敷居の外に座り、頭をグルグルと回しておった。

ところがお役人、いくら待っても手水を持って来ぬから、大声で叫んだ。

「手水を回せー」

すると、爺様は、へえー、と言いながら、いつそう早く頭をグルグルと振り回した。

それを見た役人は、

「これこれ、爺、最前から変なことをしておるが、どういふつもりじゃ」

と言うと、その爺様は、

「へい、わしは八左右衛門と申します。この村で一番の長頭でございます」と、頭を回しながら答えた。それで役人も初めて気がついて、いやいや、手水とは顔を洗う水のことじゃ、と教えた。

こうした騒ぎの後、ようやくお役人は帰って行った。間もなく、



お役所から名主の元へ一通のお達しが届いたと。開けてみると、

「染め物に使うゆえ、ノウゼンカズラの皮をむいて差し出せ」

と、書いてある。

今度も名主は、ノウゼンカズラの皮が一体何の事やら分からん。村役人の衆も誰一人としてそれを知っている者はおらん。今度もまた村一番の物知りのところへ行つて相談すると、

「こりやおおかた、能泉^{のうぜん}が面の皮をむいて差し出せということじゃ」

と、言う。ちやうどその村のお寺には、能泉という和尚がおったと。さては、お役人様が村に来たときに、あの口軽の生臭坊主、いらざる悪口でもきいて、きつとそのお咎めに違いないというわけで、和尚の面の皮をひん剥いて、それをお役所へ送り届けたと。

すると間もなく、その面の皮は送り返され、それと一緒に手紙があったと。

「ノウゼンカズラとは凌青花のことで、また分からねといけないから、ことさらに仮名で書いたものだ」

愚者の自覚を

(浄土宗二十一世紀劈頭宣言より)

「愚癡にかえりて」は負思考か？

「諦」は「あきら（める）」と読む。現実を受け入れ、それを納得しようとするこの意味で使われているが、落胆や断念、仕方なく、といったような、どちらかといえば負のニュアンスが強い。

梵語「satya」は真理を意味した。仏が得た悟りの内容そのものと言ってよい。それを漢訳する際に「諦」の字が当てられた。この字が、ものごとを明らかにすること、真理などの意味をもっていたからだ。

仏教では苦諦・集諦・滅諦・道諦の「四諦」を説く。はじめの苦諦は「この世は苦である」という「真理」だ。人間は煩惱に振り回されている迷妄の存在である。したがって誰にとっても「苦」は普遍的大前提となる。なぜか。「時」は流れる。「時」のみならず、「時」の中にいる人、モノ、心…。すべては時とともに変貌していく——「無常」である。しかし人間である以上、誰もが皆、何につけイイこと、イイ状態を望む。カネ、モノ、名誉、美貌、健康、いのちまでも…。そしてそれがいつまでも続けよ、と。

が、そうした望みはついに果たすことは出来ない。すべて裏切られるを性とする。「無常」という、これまた真理に根ざしているからにはかならない。

もつとも、個々の感受レベルを勘案してパーツ的にみれば、決して苦ばかりとも言えないが、総じて人生は苦楽の繰り返しである。煩惱は安直に恒常的な楽を望むが、無常という大前提がその実現を許してはくれない。

「諦める」は、無常―苦という真理を如実に受け入れること、これが本意である。うろたえることなしに、だ。「仕方なく」といった弱々しいニュアンスはおそらくそこにはない。それが出来たとき、苦楽を離れた中道―悟り―が自らに顕現してくるという。聖道門と呼ばれる仏教ではそう教えてきた。

人間は愚癡なる存在である――。徹底した自己省察の末に到達した法然上人の人間観だ。「愚癡」とは真理を知らぬこと、ものの道理に暗いことをいう。持ち合わせている煩惱が、無常―苦といった真理（諦）をあるがままに受け入れることを阻むのである。苦の現実を素直に、積極的に受け入れられずにもがく。楽があつたらあつたで歡喜しては、また苦を見せつけられて一憂する。落胆のうちに「グチをたれる」自分を省みれば、その意味もつかみやすい。

ところが人は、「グチ」をたれることはしても、自分がそうした「愚癡なる存在」であることをなかなか認めようとはしない。私という人格が音をた

てて崩れそうな、そんな恐ろしさがあるからだろうか。少なからぬ智をそなえた存在、そう思っているのが普通だ。そしてそこに自己の価値、意義を見出そうとし、他に対してはそれを誇示しようとする。

上人は、「愚癡にかえれ」と諭された。真理を受け入れきれない自己、愚癡なる存在である自分、それに気づけ、十分に認識せよ、というのである。

我々は、無常という普遍の道理の中で否応無しに苦と直面することを命題として課されている。しかもその剣峰は、生半可な智などではとても越えられるものではなかった。自らの力を頼りとしてその峰を越えようとし続ければ、必ずどこかでその無力さにさいなまれることとなる。

しかし、現前に広がる苦と、それに打ちひしがれる我々をもろとも抱き救ってくれる、アミダという偉大なる存在があつた——。それに気づけたなら、毎日をアグレッシブに生きていく力が与えられる。かえって苦とがつぷり四つに組めるようにもなろう。「愚癡なる存在」どうしの共感も生まれよう。

他力の教えの真骨頂はここにこそあつてよい。「逃げ」などでは、断固としてない。「愚癡にかえれ」は究極の正思考だ。

(小村 正孝)

健康に人生を送る

十力条・長田流

4. 調理、飲用など口に入れて水に注意（水道水の塩素・トリハロメタンなど）

最近「水道水には人体に有害な塩素やトリハロメタンが含まれている」という記事が、新聞や雑誌にひんばんに登場しております。わたしがそのことを知ったのは昭和五十六年のことです。当時の勤務地新潟市で、自然食勉強会に講演をお願いした大阪府立大学の武者宗郎名誉教授と夕食を共にしたことがきっかけでした。

教授が「新潟の水はわるい。こんな水を市民に飲ませてはいけない。みんなで新潟の水道水をよくす

（財）自然農法国際研究開発センター研究員

長田英樹



る運動をすべきだ」と、こんな意味の発言をなさったのです。そのときはそんなものかと思った程度でしたが、後日、東京の水道局に勤務する友人と会ったとき、教授と同じことばを投げかけてみました。新潟を東京に変えただけの受け売りです。すると友人は間髪を入れずに反論してきました。

「一千万都民にあんたが言うような立派な水を飲ませる方法があるのか。あつたら教えてほしい。秋田のような水を飲ませることはできないのだ」と東京の水源地がいかに汚染されているかを説明し、さらに「塩素が入っているからマナ板などの雑菌消毒が

できて伝染病を防げるし、擦り傷程度のケガをしただけです水道水で洗うことだ」と塩素の効用を教えてくれました。わたしは二の句が継ぎませんでした。

それからというもの、わたしは水道水に対する批判をやめました。そしてわたしの脳裏には「一千万都民に飲ませるいい水」という言葉が住み着きました。そして「水道法」によって全国の水道水には塩素投入が義務づけられていることを知りました。

わたしのふるさと秋田県田沢湖町は岩手県と県境を共有しており、分水嶺からの水をたたえたきれいな川があります。そこで川遊びをしながらその水を飲んだものです。そんな町でも水源には塩素が投入されているということです。

平成二年、わたしは「逆浸透膜式浄水器」に出会いさつそくとびつきました。その器械を通過するとすべての不純物が除去されて電気も通さない水になるのです。その実験を目の当たりにしてわたしの水観が一変しました。以来、わたしの耳目にはπウオーターや回帰水などの浄水器情報が次から次へ集中的にとびこんできました。すべてを使っているわけ

ではありませんので、どれが最高だとはいいたいたいのですが、国民が水道水の有害物質から自分の健康をまもろうとする風潮が拡大していることを了したいと思います。

運動するかのように日本中のコンビニで、スーパーで、デパートで「水」が売られるようになりました。自動販売機にも入っています。値段をみておどろきます。自動販売機では五〇〇cc一二〇円が相場です。店頭でも大差ありません。二〇〇円というのもあります。いずれもガソリンの数倍の高値です。はるか中近東から運んでくるガソリンより国内の山の水をビン詰めにしたものが高値なのです。数年前、マレーシアへ旅したとき二リットルで三〇円程度でしたので、日本とはふしぎな、おもしろい国だと思っただけです。

このように水の危険性が認識されてきましたので多くを語る必要がなくなりましたが、日本人が生きていくうえで必要不可欠な「水・米・塩は清浄なもの」というのが自然食をお勧めしているわたしの主張です。

浄信寺詠唱会

埼玉第三組

浄信寺

関東平野をゆるやかに流れる利根川の清流、茨城県との県境、緑豊かな小さな町の東部に浄信寺はございます。およそ二十年前になりますか、今は亡き母が檀家の方に「他のお寺さんで詠歌を教えているところがありますか、浄信寺さんではやっていないのですか」と聞かれ、もともと詠唱に興味を持ちテープで勉強していた母なのですが、「私は歳だから、おかあちゃんが教えたら」という事で、お声をかけて頂いた檀家の方の尊いご縁を生かし、詠唱を通しお念仏をお称えして下さる方が少しでも増えて下さればとの期待のなか、私の家内を中心に会は発足しました。

月二回の練習会では阿弥陀様のみ前で、日



常勤行式、特に念仏一会を中心にお勤めをし、私の法話の後、詠唱の練習に入るのですが、各講員さんがお菓子やお新香その他色々な物を持ち寄り、休憩時間にはよもやま話に華を咲かせ和気藹々の中、楽しいひと時を過ごしています。

また、当寺の法要にはいつも詠唱を唱え、出席者に感動を与える他、日常勤行式も唱和下さり、特に念仏一会では大きな声が本堂にこだまし、おかげで他の出席者もつられてお念仏を称えて下さいます。

その他、最大イベントである増上寺詠唱大会、また町の文化祭にも出席、就中、詠唱のお仲間やその家族が亡くなられた時、お通夜でお唱えする『光明摂取和讃』は遺族に深い感銘を与え、目頭をハンカチで押え涙する光景もよく見受けられます。私も最近母の通夜でこの和讃を聞き、ありし日の母のおもかげが走馬灯のように頭をかけめぐると共に、阿弥陀様に導かれゆく母を想念し胸のあつくな

第22回御忌詠唱奉納大会

創立20周年記念詠唱奉納大会 平成14年4月3日 大本山増上寺



るのを感じました。会の運営は「明るく、仲よく 楽しく」をモットーにしておりますが、練習会や諸行事への参加の他、年一回の研修旅行、当寺の吞龍上人祭のやきそば、花屋さん等の模擬店等を通じ、講員相互の親睦を図っております。

私が見ておりまして思わずほほえんでしまう程、モットー通りに活動されております。更に諸行事への協力は無論の事、あらゆる事に献身的なご協力を賜り、当寺にとりましても詠唱会はなくてはならぬ存在となっております。皆様の仲の良い、明るいお姿を拝見しておりますと、詠唱を通して頂いたお念仏の心が各講員さんの身や心に息づいている事を感じます。これからも皆様が元気に活躍される事を心より祈念しております。

浄信寺住職 石田 彰浩

第46回埼玉県各流讃佛歌奉詠大会



平成6年9月27日浦和市文化センター



鎌倉大仏建立七百五十年記念特別展

鎌倉大仏 と 阿弥陀信仰

会期

平成14年

10月3日(水曜)～12月1日(日曜)

会場

神奈川県立金沢文庫

開館時間

午前9時～午後4時30分

(入館は4時まで)

休館日

毎週月曜日

(ただし10月14日、11月4日は開館)

10月15日、11月5日

観覧料

個人／成人250円、20歳未満・学生150円

団体(20人以上)／成人150円、20歳未満・学生100円

(65歳以上、高校生等以下、障害者の方は無料)

交通

京浜急行「金沢文庫」駅東口下車、徒歩12分

JR根岸線「新杉田」駅接続、

シーサイドライン「海の公園柴口」駅下車、徒歩10分

主催

神奈川県立金沢文庫

共催

鎌倉大仏史研究会

晋山式
慶讃法要

正午 行列出發 山門前、大仏前、墓前、御内仏にて法要
午後二時半 大仏前にて舞樂開始 練り行列高德院駐車場出發 大仏前にて法要

高德院十五世照譽孝雄上人晋山式
鎌倉大仏建立七百五十年慶讃法要

十月二十六日(土曜)厳修

浄土誌上句会

〈特選〉

屋上や遠く眺むる五山の火

山本のり子

●屋上

普通には五山の火という言い方はしないし、京都五山等と紛らわしいが、大文字であることは分かる。どれもが見えるかどうかはともかく、都が一望できるほどの高層だろう。屋上にたむろしているのである。

〈佳作〉

萩すすき屋上に野を現じたり

片桐てい女

茄子胡瓜屋上産と配らるる

増田 信子

屋上の錆びたる手摺り油照り

佐藤 まり

●肩

〈特選〉

肩馬の孫の重みや梅雨晴れぬ

加藤 政男

肩車である。雨がしばらく続いたあとの、ほんの少しの晴れ間だろうか。孫を肩にまたがせて外に出る。「重み」には、しばらくの

間にまた大きくなったという、実感があるの
だろう。子供の成長は早い。

〈佳作〉 肩上げのとれる少女や祭笛

周東 澄江

遠雷や夫に肩かし階おりる

中島富士子

梅雨と中掃除づかれの肩をもむ

大村 和代

●自由題

〈特選〉

ひぐらしやはじめに戻る童唄

片桐てい女

この句を読むと、「夕やけこやけの」とい
う歌がひとりで出てくる。思いだす歌は読
者任せだが、皆で歌いながら帰る様子は浮か
んで来よう。同じ文句を繰り返し繰り返しし
た経験は、誰にでもあるはずだ。

〈佳作〉 椎若葉寺領三万坪の風

細田 初枝

表札にざらりと子の名つばめ鳴く

北川 弘子

水鉄砲撃たれし友の死んだふり

坂倉左武朗



参加作品.....編集部選

屋上

屋上の干場をつめる梅雨晴れ間
屋上に鳴きて日を終う夕鴉
屋上で花火待つ人顔そろえ
屋上にびく包帯くもの峰
屋上に夜空眺めて星の数
屋上に勤め帰りの大ジヨッキ
子供連れデイトは屋上飛行塔
屋上に稲荷もおわすビエガーデン
屋上に逃れし人や秋出水
屋上で見し夕焼けを拝みたり
屋上の角の菜園トマト成る
屋上に育つ草木や月涼し
鯉のぼり屋上に泳ぐビルの街

山口信子
石原新
谷しげ子
北川弘子
今井恵子
中島一子
堀管子
山本美代子
周東澄江
佐藤雅子
嶋田喜代子
河合富美枝
細田初江

肩

大夕焼肩ごしに受け漁師帰る
肩ならべ園児ら唄う星祭
しなやかに肩叩く児や夕涼み
旅立ちぬ肩に食い込むリユツクかな
肩に父背負いし汗の日も遠し
夜店見て笑顔こぼるる肩車
撫で肩は母親ゆずり浴衣美し
肩上げを解きて祭り浴衣かな
夏祭りお面顔に肩ぐるま
撫で肩の尼の姿は桐の花
讃美歌の肩先揺るる星祭
肩揃へ女も担ぐ大神輿
肩山の日焼けし服を捨てられず
肩ふれて会釈で別る菊館

浜口佳春
谷しげ子
井村善也
山口信子
増田信子
佐藤まり
石原新
佐藤雅子
山本のり子
嶋田喜代子
河合富美枝
細田初枝
片桐てい女
金谷友江

浄土誌上句会のお知らせ

題

④季語ではありません

点

猪口

自由題

締切・十月二十日

発表・『浄土』二〇〇二年十二月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）

応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

自由題

人の目を集めて金魚掬いかな
夏の海海が好きだと絵葉書く
通り雨波止の船虫さつと失せ
通し土間涼しき風の道となり
夜釣時漁家の集金はかどらず
風筋に風鈴吊りて雨の午後
山の蟻窓に重たき翅音かな

増田信子
加藤政男
浜口佳春
小林惠美
大村和代
山口信子
小川惠美

漫画で楽しい仏教用語

漫画・藤井ひろし

不断

「ふだん」ですが、皆さんは「ふだん」というと、いつもは普段と書かれているのではないのでしょうか。

本来は不断と書くようですが、三つの意味を持っています。一番よく使うのが、「普段」とも書き、平常の意味です。次が「不断」で絶え間のないこと。そして、決断の鈍いことで、優柔不断。

今回のふだんは絶え間のないことを意味する不断で、仏教では不断念仏などと使います。とぎれない念仏ということで、この二文字が名前になっているお寺も少なくありません。



さまざまな器選はず月宿る 俗潤

先日小さな映画館で『プロミス』という映画を見ました。パレスチナとイスラエルに住む七人の子どもたちの目を通して、和平の可能性を考えるドキユメント映画です。

同じイスラエルの国の中にあっても、ユダヤ人地区に住む子ども四人と、パレスチナ人地区と難民キャンプ内に住む子ども二人が、それぞれに語る相手のこと、自分たちの家族のこと、そしてその思いが、カメラに向かって切実に語られていました。それは当然その環境や、大人たちからの影響が大きく単純に子どもの考えとはいえませんが、それだけ純真化したその地区の人々の思いとしてみることはできるで

しょう。

そしてこの映画が撮られた九七年から二千年は、まだ比較的平穏であったことを思うと、現在の状況は余りにも悲惨と言わざるをえないでしょう。

最後のインタビューでパレスチナの子どもたちが、必死に和平を訴えているにもかかわらず、ユダヤの子どもたちが皆そろってアラブとの共存を否定しているのには、今の状況を理解する鍵があるようにも思えました。

「復讐するは我にあり」

この我は神のことです。人間は決して復讐などしてはいけなさと、旧約聖書には書かれているのですが……。

(長)

ホームページ <http://www.jodo.ne.jp>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川俗潤
斎藤光道
村田洋一
佐山哲郎

編集顧問

大室了悟

浄土

六十八巻十月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十四年九月二十日

発行 平成十四年十月一日

発行人

真野龍海

編集人

佐藤良純

印刷所 株式会社

シーティイー

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四・七・四明照会館内

発行所

法然上人鑽仰会

電話 〇三三・五七八 六九四七

FAX 〇三三・五七八 七〇三六

振替 〇〇一八・八八二八七

New & Used Cars
Takata & Co., Ltd.
SINCE 1965

あなたの一台を世界から

ベンツ・ボルシエ・

フェラーリ・ロールスロイス・

国内の各ディーラーにも

在庫の無い車種でも

世界中から輸入しお届け致します。



最新在庫情報をご覧になれます。

<http://www.takataco.jp>
E-mail: union@takataco.jp

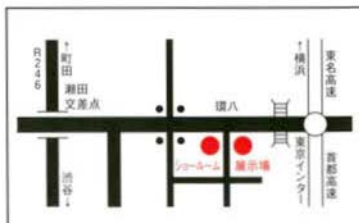
UNION

輸入元(外国自動車輸入協同組合員)
株式会社 高田商會

東京都世田谷区玉川台2-12-1 (〒158-0096)

営業時間：平日／9:30～20:00 日祝／10:00～18:00
定休日／年中無休

☎03-3708-1911 FAX.03-3708-2066



東名用賀インター瀬田交差点にむかってすぐそば

全
法衣 佛具
東 京
大 西

10月10日開店

匠の技ここに集結

皆
様
の
ご
来
店
を

心
より
お
待
ち
致
し
て
下
り
ま
す



フリーダイヤル

0120-55-2429

〒105-0013

東京都港区浜松町1丁目26-4

Tel(03)5408-3377 Fax(03)5408-3378

